

高岡市立博物館収蔵 筏井竹の門資料リスト（計88件237点）

2022. 04. 26現在

1 歴史資料										
No.	登録番号	資料名称	年代	作者名	数量	形態	材質技法	収納年月日	備考 ※寸法（縦×横）は本紙	掲載誌・展覧会出品履歴
1	1-01-36	筏井竹の門書簡 （附、竹の門宛書簡3通）	大正7・8年 (1918・1919)	筏井竹の門	2	葉書	紙本墨書	2019. 02. 01	・ 寸法 （2点同寸）14. 4cm×9. 0cm ・ 書簡2通の宛先は安嶋太次郎、大牧（温泉）。 ・ 付属品の書簡3通の差出は三輪未央・塩谷鶴平・早見光太郎	
2	1-01-37	筏井竹の門書簡 （発田喜太郎宛）	大正期（①年未詳10月15日付②10月17日付）	筏井竹の門	2	軸装	紙本墨書	2019. 03. 01	・ 寸法 ①23. 3cm×30. 7cm、②23. 1cm×43. 5cm ・ 竹の門から発田喜太郎宛。 ・ 発田家の猿滑の枝を1, 2枝所望したいとの内容	
3	1-01-68	筏井竹の門年賀状 （沢田沢楼宛）	大正14年 (1925) 正月	筏井竹の門	1	軸装 (元は葉書)	紙本墨書	2002. 08. 01	・ 寸法 77. 5cm×21. 0cm ・ 竹の門から澤田澤楼宛の年賀状を軸装したもの。墨で牛(丑)に乗る男を描く	
4	1-01-89	筏井竹の門書簡	大正期	筏井竹の門 (No.2) ほか	1	葉書	紙本墨書	2006. 05. 30	・ 計25点中、1点（No.2）は竹の門筆。 ・ 22点（No.3～24）は竹の門宛、うち1点（No.1）は竹の門が直接関係してないもの、うち1点は不明。 ・ 宛先や差出に室崎間佐七・小川千甕・志摩口太郎・大谷繞石・富田溪仙・栗津水棹・池田すぐる・亀田小蛸・橋田東聲・遠矢射穹・谷聴泉・白田亜浪・山口八九子・名和三幹竹・中塚一碧楼・河野慎吾・山城瓶原など	
5	1-01-175	筏井竹の門書簡 （内島北朗宛）	①年未詳5月2日 ②大正12～13年(1923～24)頃 6月20日 ③年未詳（大正13年頃）8月12日	筏井竹の門	4	卷子	紙本・墨書、墨画 淡彩	1972. 03. 01	・ 書簡3通（計4枚） ・ 寸法 ①23. 5cm×50. 4cm、②-1_23. 3cm×49. 8cm、②-2_23. 2cm×29. 4cm、③24. 2cm×68. 2cm ・ 竹の門から内島北朗宛。 ・ ①（内容等）前日の曇天にもかかわらず、無事曳き回された高岡御車山のこと、竹の門自身の個展を開催したこと、北一の後輩・北朗に対し、同社の室崎間佐七が高岡打綿会社に異動したことなども伝える。 ・ ②（内容等）「昨夜は久しぶりに竹の門宅で句会を開き、16名も参加した盛会であった。最近では若い人が多く覚えられない位である。最近、井波瑞泉寺住職で俳人の浪化とその子・桃化、及び三浦樗良等の研究が盛んだ。来る10月、井波にて私の百幅会を行い、彼らに関する展示もあることなどを伝える。 ・ ③（内容等）7月上旬頃に、風邪をひきながらも黒部へ旅行したこと、10年前に溪仙と信州越えの旅行に行ったことなどを伝える	①は『竹の門遺墨百選展』（S49）出品・掲載

6	1-01-199	俳画についての意見「烏賊図」（内島北朗宛）	大正期	筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨書、墨画 淡彩	2009. 07. 16	・寸法 34.0cm×35.4cm ・共箱蓋表に墨書「竹の門海賊ニ消息」、蓋裏に「北朗題（黒文方印「北朗」）」。 ・本紙中央に烏賊の絵、その周囲に竹の門が俳画についての意見・助言を書き、内島北朗に宛てたもの。 ・（内容等）世間の事は全て楽なことは無く、大きな事を思いつつ多くの人は何もできない。何でも一つしっかりしたものをつかんだら離さず、小さくてもよいのでよい質のものをつかめば充分だ。一度やりかけたら飽くまで頑強にやり通さねばならぬ。私は俳画だけでも中々重荷だが、これしかやれないから他事をやらないだけだ…など	『竹の門作品集』（S58）掲載
7	I -1-695	筏井竹の門書簡（室崎佐太郎宛）	年未詳（大正末期頃）6月3日	筏井竹の門	1	葉書	紙本・墨書、墨画 淡彩	2014. 01. 24	・寸法 14.2cm×9.1cm ・竹の門から高岡木舟町の室崎分家・佐太郎（1878～1959）宛（宛先は「高田市上職人（現新潟県上越市大町三丁目）／北一支店」）。 ・高岡の大ツツジを見る2人の後姿が描かれ、大正13年（1924）末より病床に伏す竹の門が病氣見舞いを謝している。佐太郎の弟は童謡「夕日」の作曲家・室崎琴月（清太郎／1891～1977）。 ・2021. 7月に追加寄付されたもの	
8	I -1-695	筏井竹の門書簡（室崎佐太郎宛）	大正7年（1918）11月3日	筏井竹の門	1	葉書	紙本・墨書、墨画 淡彩	2014. 01. 24	・寸法 14.2cm×8.9cm ・竹の門から仕事で大阪にいる室崎佐太郎宛。 ・大牧温泉（現富山県南砺市利賀村）より、養老昆布（昆布巻等に使われる贈答用昆布）と昆布茶を本日受け取ったので、その礼を伝える。 ・竹の門は、大正3年頃より毎年秋に支援者の室崎間佐七らと半月ほど大牧温泉に滞在して、創作や山遊びなどをしており、この絵は何かを書いている間佐七を描く。 ・2021. 7月に追加寄付されたもの（ほか竹の門関連の未調査分あり）	
9	I -1-695	筏井竹の門ほか2名書簡（室崎清七宛）	大正8年（1919）10月7日	筏井竹の門	1	葉書	紙本・墨書、墨画 淡彩	2014. 01. 24	・寸法縦9.1cm×横14.1cm ・大牧温泉滞在中の竹の門と「牧の」、「室崎」（間佐七か）が室崎分家（6代間平の弟）清七（1851～1931）に宛てた葉書。 ・竹の門が描いた大きな鮎の絵の余白に、おそらく室崎間佐七が当地の今年の鮎は大きく美味しかったことなどを伝える。 ・2021. 7月に追加寄付されたもの（ほか竹の門関連の未調査分あり）	

10	1-03-95	『竹の門句集』	大正10年 (1921)4月	(編)木津蛭雪	1	冊子	紙・印刷	2021. 04. 17	・寸法 15.0cm×10.4cm×厚0.7cm ・弟子の木津蛭雪・篠島眠石・北本有田楼が、散逸しつつある師の句約3千句のうち、千余句を選んで自主的に編集した句集。 ・句集冒頭部には、大谷句仏・河東碧梧桐の題句、富田溪仙の題字と題画、小川芋銭の題詩と題画、塩谷鶴平・山口花笠の序文が添えられる。竹の門肖像写真も掲載	
11	1-03-121	俳句選集『春夏秋冬』(全4冊)	①明治34年(1901)5月25日、②同35年5月15日、③同35年9月7日、④同36年1月12日	(発行)ほととぎす発行所、俳書堂、文淵堂	4	冊子	紙・印刷	2022. 02. 26	・寸法 (①～④4冊同寸) 15.3cm×10.9cm ・〔①春〕正岡子規選、〔②夏③秋④冬〕河東碧梧桐選、高浜虚子選。 ・明治30年(1897)以降の正岡子規率いる日本派の代表的句集。春の部には、子規や夏目漱石、碧梧桐らと並び、竹の門の句が計14句(夏の部10句、秋の部6句、冬の部5句)掲載	
12	1-03-123	俳誌『ホト、ギス』 ①第9巻第1号 ②第11巻第3号 ③第12巻第3号	①明治38年(1905)10月10日、②同40年12月1日、③同41年12月1日	(発行)ほととぎす発行所	3	冊子	紙・印刷	2022. 02. 26	・寸法 ①22.4cm×15.4cm、②22.1cm×15.5cm、③22.1cm×15.2cm ・高浜虚子編。 ・①「募集俳句」欄で竹の門の句が2句入選、地方俳句会報欄「有磯吟社」に竹の門の句が1句掲載 ・②沢田はぎ女3句、広島花溪楼1句、竹の門は「地方俳句界」欄に1句掲載 ・③「地方俳句界」欄に竹の門の句が2句掲載	
13	1-03-125	『明治百人十句』	明治43年(1910)	(監修)吉野臥城 (発行)昭文堂	1	冊子	紙・印刷	2022. 02. 26	・寸法 15.3cm×10.9cm×厚1.5cm ・明治俳壇の代表的俳人や地方で活躍した俳人100人を選び、それぞれの人物の10句を掲載。 ・監修者の吉野臥城(1876～1926)は、宮城県出身の詩人、歌人、俳人、評論家、作家。 ・富山県からは竹の門のほか、寺野竹湍、山口花笠ら3名の越友会員が選出	
14	1-03-126	『歌集 蘭奢待』	大正14年(1925)4月5日	(発行)蘭奢待発行所	1	冊子	紙・印刷	2022. 02. 26	・寸法 19.2cm×13.2cm×厚1.8cm。紙カバー付 ・著者兼発行者は大熊長次郎。 ・巻頭に竹の門が描いた人參図の写真が掲載	
15	1-03-127	俳誌『懸葵』(「竹の門追悼号」)第22巻第5号	大正15年(1926)5月1日	(発行)懸葵発行所	1	冊子	紙・印刷	2022. 02. 26	・寸法 22.4cm×15.3cm×厚0.6cm ・編集兼発行者は沼法量。 ・明治37年(1904)に京都の俳人・中川四明創刊。その後、大谷句仏が引き継ぐ。本号は、生前親交のあった人々が竹の門を偲び、寄稿している。追悼句抄には句仏、虚子、碧梧桐、溪仙ら69人の名がある	

16	1-03-128	俳誌『燃生』（第5～11号）	大正10年 (1921)	(発行)十日 会、燃生詩社	7	冊子	紙・印刷	2022. 02. 2 6	・寸法①【第5号・1/1付】24.5cm×16.1cm、②【第6号・2/10付】22.2cm×15.4cm、③【第7号・3/10付】22.3cm×15.6cm、④【第1巻第8号4月号・4/10付】22.2cm×15.2cm、⑤【第1巻第9号5月号・5/15付】22.2cm×15.1cm、⑥【第1巻第10号6月号・5/25付】22.0cm×15.0cm、⑦【第1巻第11号7月号・7/30付】22.1cm×15.0cm ・各号に竹の門の句（①は4句、②は10句と燃生を祝す1句、③は8句、④は6句、⑤は5句と木津観桃句会での1句、⑥は7句、⑦は5句）のほか、⑦には木津蛭雪の句に対する句評文が掲載	
17	1-03-	俳句選集『続春夏秋冬』（全4冊）	明治39～40年 (1906～07)	(発行)俳書堂 靱山書店	4	冊子	紙・印刷		・寸法（4冊同寸）15.2cm×11.0cm ・河東碧梧桐選。 ・竹の門の句（春2句・夏2句・秋6句・冬3句の計12句）掲載	
18	1-03-	俳誌『新選一萬句』	明治41年 (1908)第3版	(発行)博文館	1	冊子	紙・印刷		・寸法 12.5cm×18.5cm×厚3.0cm、510頁 ・今井柏浦編。 ・竹の門の句が35句掲載。 ・初版は明治40年8月	
19	1-03-	俳誌『懸葵』 ①第4巻第12号 ②第11巻第11号	①明治41年 (1908)2月15日 ②大正4年 (1915)1月1日	(発行)懸葵発 行所	2	冊子	紙・印刷		・寸法 ①22.1cm×15.3cm×厚0.4cm、②22.3cm×15.1cm×厚0.6cm ・①中川重麗編、②栗津操編 ・①竹の門の句が2句、募集俳句に入選。ほか有磯吟社（越中氷見町服部霞峰による報告）に1句掲載 ・②竹の門の句「秋より冬へ」に16句掲載	
20	1-03-	俳誌『新俳句』	大正元年 (1912)8月10 日第7版	(発行)民友社	1	冊子	紙・印刷		・寸法 18.7cm×12.9cm、402頁 ・正岡子規選。 ・正岡子規派初の大規模俳句選集。 ・冒頭に子規と高浜虚子の序文あり。 ・竹の門の句が2句掲載 ・初版は明治31年3月	
21	1-03-	『ホトトギス 雑 詠集』	大正4年 (1915)10月18 日	(発行)四方堂	1	冊子	紙・印刷		・寸法 18.7cm×12.6cm×厚1.8cm ・高浜虚子選。 ・竹の門の句が1句掲載	

22	1-03-	俳誌『オクヤマ』 (第6～8巻)	①大正4年 (1915)9月25 日、②同4年 12月25日、③ 同5年2月25 日、④同5年3 月25日、⑤同 5年5月25日、 ⑥同5年6月25 日、⑦同5年7 月20日、⑧同 5年9月20日、 ⑨同5年10月 25日、⑩同5 年11月20日 ⑪同5年11月 25日、⑫同6 年1月25日、 ⑬同6年4月25 日、⑭同6年5 月25日、⑮同 6年6月25日⑯ 同6年8月25日 ⑰同6年10月 25日	(発行)奥山会	17	冊子	紙・印刷	・寸法 ①【第6巻第7号】23.7cm×16.1cm、②【第6巻 第10号】23.9cm×16.2cm、③【第6巻第12号】23.5cm× 16.1cm、④【第7巻第1号】23.7cm×16.2cm、⑤【第7巻 第2号】23.7cm×16.1cm、⑥【第7巻第3号】23.5cm× 16.1cm、⑦【第7巻第4号】23.7cm×16.2cm、⑧【第7巻 第5号】23.9cm×16.1cm、⑨【第7巻第6号】23.9cm× 16.0cm、⑩【第7巻第8号】23.5cm×16.0cm、⑪【第7巻 第7号】23.8cm×16.0cm、⑫【第7巻第9号】23.5cm× 15.9cm、⑬【第7巻第10号】23.3cm×15.7cm、⑭【第7 巻第11号】23.3cm×16.0cm、⑮【第7巻第12号】23.2cm ×15.9cm、⑯【第7巻第13号】23.6cm×16.0cm、⑰【第 8巻第2号】23.7cm×16.0cm ・編集兼発行は渡部栄伍。 ・①～⑫は8頁、⑬～⑰は4頁。 ・竹の門の句は①に5句、④に5句、⑫に5句掲載。 ・⑫の「会報と消息」欄に、高岡の広島花溪楼が 竹の門について一言書きつつ、自身の近況につい ても記す(8頁)	
23	1-03-	俳句選集『新春夏 秋冬』	大正5年 (1916)12月1 日再版	(発行)初山書 店 俳書堂	1	冊子	紙・印刷	・寸法 15.3cm×11.3cm×厚3.0cm、178頁 ・松根東洋城選。 ・竹の門の句が16句掲載。 ・初版は大正4年10月	
24	1-03-	俳誌『熱』(第 27・28・31号)	①大正8年 (1919)4月15 日、②同年4 月15日、③同 年8月15日	(発行)熱吟社	3	冊子	紙・印刷	・寸法 ①22.1cm×15.0cm、②22.0cm×15.1cm、 ③22.5cm×15.1cm ・①に竹の門の句が2句(「素寿君の義兄を悼 む」として)掲載	
25	1-03-	俳誌『林檎』 ①第1集 ②第2集	①大正14年 (1925)4月1 日、②同年4 月18日	(発行)林檎社	2	冊子	紙・印刷	・寸法 ①27.6cm×20.0cm、②27.1cm×19.6cm ・発行編集は綾木紅潮。 ・①には竹の門の句が5句掲載	

26	1-05-55	筏井竹の門旧蔵写真	明治36年～大正12年(1903～23)	<撮影地> ②長崎市自麴町・ひので写真館 ⑤高岡・臼井写真館 ⑥福光・光遊館 ⑦富山・中林写真館 ⑧～⑭高岡・上野写真館	17	台紙貼り写真	紙・印刷	2019. 02. 01	①「和田煙霞亭にて」明治36年(1903)1月18日 ②「長崎にて」明治43年(1910)3月 ③「句仏上人を擁して男山に詣つ記念」明治44年(1911)2月22日 ④「城端水月吟社大会記念」明治44年(1911)7月2日 ⑤「梅松園偶会記念」明治44年(1911)9月10日 ⑥「城端満花庵にて碧師揮毫記念」明治45年(1912)6月15日 ⑦「高田稲光氏所蔵絵画」(人物なし)大正元年(1912)8月14日 ⑧「溪仙百幅会記念」①(屋内風景／人物なし)大正2年(1913)10月12日 ⑨「溪仙百幅会記念」②(屋内風景／人物なし)大正2年(1913)10月12日 ⑩「溪仙百幅会記念」③(集合写真)大正2年(1913)10月12日 ⑪「溪仙百幅会記念」④(溪仙の揮毫風景)大正2年(1913)10月12日 ⑫「松杉窟記念」大正2年(1913)10月15日 ⑬「千甕画伯作品展覧会記念 於・高岡商業会議所」大正6年(1917)6月10日 ⑭「小川芋銭氏来岡記念 於・木津楼」大正7年(1918)9月20日 ⑮「本行寺北陸俳人大会」①(屋外撮影)大正11年(1922)7月16日 ⑯「本行寺北陸俳人大会」②(屋内撮影)大正11年(1922)7月16日 ⑰「□□館における作品百幅会記念句会をみよし庵にて開き・・・の前に一同撮影す」大正12年(1923)4月22日	
27	1-05-284	絵葉書「筏井竹の門 作品展覧会」	(発行)大正7～昭和7年(1918～32)		9	葉書	紙・印刷	2022. 02. 26	・寸法(9枚同寸)9.1cm×14.1cm ・全て未使用。竹の門の作品写真と作品名、所蔵者名が記載。 ・①「四季花□(屏風)志摩與太郎氏蔵」②「高岡公園の蓮 室崎作太郎氏蔵」／「呉羽山の月 室崎間佐七氏蔵」③「南天 寺田彦一氏蔵」／「石榴 室崎嘉七郎氏蔵」④「芭蕉 志摩與太郎氏蔵」／「崖の家 室崎間佐七氏蔵」⑤「鯛(鵜平氏賛)堀井仁作氏蔵」／「瓶の野菊 上野桑太郎氏蔵」⑥「蔬菜 笠舞乙吉氏蔵」／「天南星 堀井勝二氏蔵」⑦「陽紫花と百日紅 室崎嘉七郎氏」／「紅梅 寺田彦一氏蔵」⑧「栗 上板為吉氏蔵」／「カンナ 松村助治郎氏蔵」⑨「風竹 関澤卯作氏蔵」／「黄初平 室崎作太郎氏蔵」／「ポプラの黄葉 志摩與太郎氏蔵」	

2 美術資料										
No.	登録番号	資料名称	年代	作者名	数量	形態	材質技法	収納年月日	備考 ※寸法(縦×横)は本紙	掲載誌・展覧会出品履歴
28	3-01-01-16	松図	大正期	(画)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨画 淡彩	2017. 05. 10	・寸法 139.1cm×34.2cm ・何本もの松の樹の枝がうねるように伸びる様子が画面いっぱいに描かれ、松の木肌や枝の節々が、墨の濃淡でうまく表現されている。 ・「竹の門生（朱文方印「虎」）」	
29	3-01-01-17	小督の塚	大正8年 (1919)頃	(画)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨画 淡彩	2019. 02. 05	・寸法 34.7cm×31.6cm ・「小督の塚（〇に「す」）」	『竹の門遺作展』 (S40) 出品・掲載
30	3-01-01-28	書簡「自画像」 (内島北朗宛)	大正12～13年 (1923～24)頃 8月27日	筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨書、墨画	1974. 07. 31	・寸法 36.0cm×33.8cm ・竹の門から、俳句の弟子で高岡川原町出身の陶芸家・内島北朗(1893～1978)に宛の手紙。北朗夫人の快気のお祝いとともに自分の病状を伝える。病に苦しむ竹の門自身の苦悶の表情がよく描かれる ・「竹の門生（朱文方印「虎」）」	『竹の門遺墨百選展』 (S49)掲載
31	3-01-01-39	扇面合作（二見温泉にて）	大正3年 (1914)7月16日	(賛)筏井竹の門 (画)富田溪仙	1	軸装	紙本・墨画	2009. 07. 16	・寸法 16.8cm×52.2cm ・竹の門と福岡県博多出身の日本画家・富田溪仙(1879～1936)との合作扇面。本資料は大正3年7月15日から21日まで溪仙ら7名と黒部峡谷から信州へ旅行し、その間の16日夜に二見温泉（黒部峡谷内の小温泉の一つ）に泊まった折に描かれたものと考えられる。 ・本紙左部に竹の門の句賛「二見温泉にて／蚊帳釣らぬ／涼しき／瀬音／耳聲ゆる／竹の門」 ・本紙右部に溪仙の画（カエル2匹が容器の側面をよじ登る様子を描く）。画のすぐ上に墨書「溪為河鹿楼主人」、描かれたカエルは「カジカガエル」	『竹の門作品集』 (S58)掲載
32	3-01-01-42	画帖『霊泉帖』	大正13年 (1924)	(画)筏井竹の門	1	折本	紙本・墨書、墨画 淡彩	2021. 04. 17	・寸法 24.0cm×18.0cm×厚2.1cm ・表と裏、それぞれの見開き頁に、計14点（画・8点、句6点）を描く。表面は、大牧温泉行き（大正13年8～9月）の様子を描いており、これが竹の門の最後の旅行となった。裏面は黒部行き（大正13年7月）。温泉地での旅の様子がうかがえる貴重な資料	「竹の門遺作展」 (S10・S40) 出品

33	3-01-01-43	桜図	大正8年 (1919) 春	(画) 筏井竹の 門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2021. 04. 17	・寸法 136.8cm×33.1cm ・桜並木が連なり、傍には雪洞が描かれる様子を描く。 ・「己未春 四石山人（白文方印「四石」）」	
34	3-01-01-44	杜若図	大正期	(画・賛) 筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	2021. 04. 17	・寸法 135.8cm×32.3cm ・苗が植えられた水田の脇に杜若が描かれ、上部には自らの句賛あり。 ・「竹の門并題（朱文方印「虎」）／水張りし田の／さゞ波や／初夏の雲」 ・箱書きは、京都出身の画家・小川千甕(1882～1971)。千甕もしばしば高岡に来て竹の門に影響を与えた	『竹の門句集』（T10）p22掲載、『竹の門遺墨集』（S20）に「青田」の作品名で掲載、『竹の門遺墨百選展』（S49）出品・掲載
35	3-01-01-45	短冊「水仙図」	大正期	(画) 筏井竹の 門	1	短冊	紙本・墨 画淡彩	2021. 04. 17	・寸法 36.1cm×6.0cm ・中央に水仙を描く。 ・「竹の門（朱文方印「虎」）」	
36	3-01-01-46	短冊「高士観瀑 図」	大正期	(画) 筏井竹の 門	1	短冊	紙本・墨 画淡彩	2021. 04. 17	・寸法 36.1cm×6.0cm ・中国の文人である高士（志が高く、人格の高潔な人）が、流れ落ちる滝を見る様子を描く。観瀑図は漢画（中国絵画）の重要な画題とされ、「滝」は文人・高士の理想とされた存在だった。 ・「四石山人（朱文方印「虎」）」	
37	3-01-01-47	小竹の山図	大正期	(画) 筏井竹の 門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2021. 06. 22	・寸法 137.9cm×34.0cm ・「己未五月 小竹山／四石（白文方印「四石」）」	『竹の門遺墨集第3集』（S20）掲載
38	3-01-01-48	水仙図	大正期	(画・賛) 筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	2021. 06. 22	・寸法 136.8cm×31.5cm ・水仙が描かれ、竹の門自らの句賛あり。 ・「老いて一日の／たふときを／元旦にせり／竹の門并題（朱文方印「虎」）」	「竹の門遺作展」（S10）出品、『竹の門遺墨集続集』（S11）掲載
39	3-01-01-51	太古石竹図	大正11年 (1922) 7月	(画) 筏井竹の 門	1	軸装	紙本・墨 画	1968. 02. 12	・寸法 136.7cm×33.3cm ・画面中央には存在感のある大きな石が、背景には笹の葉が描かれる。 ・「壬戌七月 竹の門生（朱文円印「四石」）」	
40	3-01-01-52	片栗の花図	大正期 ※大正8年 (1919) 以降	(画・賛) 筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	1976. 03. 26	・寸法 126.8cm×29.5cm ・片栗の花と竹の門自らの句賛あり。 ・「片栗の花ハ咲きたり傾きて／赤紫に今年咲きた里／竹の門生（朱文方印「虎」）」	『竹の門遺墨百選展』（S49）出品・掲載

41	3-01-01-53	貼り交ぜ屏風	大正初期	筏井竹の門	19	6曲1隻 屏風	紙本・墨 画淡彩	1982. 03. 17	・寸法 (各扇)115. 0cm×43. 2cm ・19点の俳画を屏風仕立てにしたもの。それぞれに印章の朱文円印 (描印「○にス」・「○に杉」など) がみられる。人物や動物、植物などの画が描かれる。 ・第6扇の下絵に「大正四年」(1915)とある。 ・全体的に画が固く、こなれていないので、明治44年(1911)8月に富田溪仙の影響により俳画を始めて間もない時期の作品とみられる	
42	3-01-01-54	つくし図	大正期 ※大正8年 (1919)以降	(画・賛)筏井 竹の門	1	雲版	木・墨 書、墨画 淡彩	2003. 04. 01	・寸法 径47. 2cm×厚0. 7cm ・中央にツクシと竹の門自らの句賛あり。 ・「山二つ／蒼々として／春暮るゝ／竹の門生 (朱文方印「虎」)	
43	3-01-01-55	白菜図	大正9年 (1920)12月	(画・賛)筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	2003. 03. 23	・寸法 136. 3cm×22. 2cm ・竹の門が描く白菜と自らの句賛あり。 ・「限りなき時の中より年々の／年の終りの惜しくもあるかな／大正九年師走 竹の門生 (朱文方印「虎」)	『竹の門遺墨集続集』 (S11) 出品・掲載
44	3-01-01-56	南天図	大正期	(画・賛)筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	2003. 03. 23	・寸法 136. 9cm×22. 2cm ・南天が描かれ、上部に竹の門自らの句賛あり。 ・「河鹿」はカジカガエルのこと、夏の季語。 ・「鉢の河鹿鳴かんとしてハ／鳴かず午后の日ざし／竹の門并題 (描印「」)	「竹の門遺作展」 (S10)、『竹の門遺墨 百選展』(S49)ともに 同名1点ずつ出品
45	3-01-01-57	ポプラ図	大正期	(画・賛)筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	2003. 03. 23	・寸法 136. 5cm×22. 2cm ・枯れたポプラの枝葉と竹の門自らの句賛あり。 ・「工場閉鎖して枯るゝ蓮田の／山近し／竹の門并題 (朱文方印「虎」)	『竹の門遺墨集第3集』 (S20)掲載、「竹の門 遺作展」に同名1点出品
46	3-01-01-58	伏木の港	大正8年 (1919)秋	(画)筏井竹の 門	1	扁額	紙本・墨 画	2008. 05. 09	・寸法 34. 3cm×69. 1cm ・上部に山々が描かれ、下部には伏木港の行き交う船舶の帆が何本も描かれる。 ・「己未秋伏木にて／四石山人画 (白文方印「四石」)	『竹の門作品集』 (S58)掲載

47	3-01-01-59	霞ヶ瀧図	大正7年 (1918)11月	(画)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2008. 12. 27	・寸法 142.5cm×33.2cm ・紅葉で赤く色づく木々の間を滝が流れ落ちる様子を描く。 ・霞ヶ瀧は、現南砺市上梨（世界遺産・相倉集落付近）にあり、「遠洞峡谷」（南砺市指定名勝天然記念物）に含まれる紅葉の名所。 ・「五ヶ山中／霞ヶ瀧／戊午秋十一月／四石山人（描印「」）」	「竹の門遺作展覧会」（S10）に同名1点出品、『竹の門遺墨集続集』（S11）掲載、『竹の門遺墨百選展』（S49）に同名1点掲載・出品、『竹の門作品集』（S58）掲載
48	3-01-01-60	国分寺附近	大正期	(画)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2009. 01. 14	・寸法 46.0cm×47.6cm ・高岡・伏木一の宮にある国分寺周辺の風景を描く。越中国分寺跡は、昭和40年10月1日に富山県指定史跡に指定された。 ・「国分寺附近（白文方印「四石」）」	
49	3-01-01-61	金柑図	大正11年 (1922)12月	(画・賛)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2009. 05. 01	・寸法 136.8cm×32.8cm ・鉢植えの金柑と竹の門自らの句賛あり。 ・「水飯や／萩はほつゝ／花になり／竹の門并題（白文方印「四石」）」。 ・共箱蓋裏に「壬戌師走竹の門題（朱文方印「虎」）」	
50	3-01-01-62	桔梗図	大正期	(画)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2009. 07. 16	・寸法 136.0cm×21.6cm ・画面中央に桔梗を描く。 ・「四石山人（白文方印「四石」）」	『竹の門作品集』（S58）掲載
51	3-01-01-63	向日葵図	大正8年 (1919)以降	(画)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2010. 04. 01	・寸法 136.8cm×33.2cm ・画面に大きく向日葵を描く。 ・「四石山人（朱文方印「虎」）」	
52	3-01-01-64	鶏頭図	大正期	(画・賛)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	2010. 04. 01	・寸法 138.0cm×33.5cm ・画面に鶏頭を描き、竹の門自らの句賛あり。 ・「干網の裾紅す鶏頭かな／竹の門生（朱文方印「虎」）」	『竹の門句集』（T10）p49掲載
53	3-01-01-65	朝顔図	大正8年 (1919)秋	(画)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2010. 06. 17	・寸法 23.7cm×35.8cm ・画面全体に朝顔を描く。 ・「己未秋（朱文方印「虎」）」	『竹の門遺墨集続集』（S11）掲載、「竹の門遺作展」（S40）に同名3点出品、『竹の門作品集』（S58）掲載
54	3-01-01-66	柳図	大正期 ※大正8年 (1919)以降	(画)筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2010. 06. 17	・寸法 24.0cm×36.2cm ・画面全体に柳を描く。 ・「竹の門生（白文方印「四石／道人」）」	『竹の門作品集』（S58）掲載

55	3-01-01-67	薊図	大正12年 (1923)3月	(画)筏井竹の 門	1	軸装	絹本・墨 画淡彩	2010. 06. 17	・寸法 142. 6cm×34. 2cm ・絹本に薊（菊科の多年草）が描かれる。 ・「癸亥三月 竹の門生（白文方印「四石」）」 ・箱書きは、現南砺市井波出身で大正期に活躍した俳人・竹村繭母子。 ・「癸亥三月 竹の門生（白文方印「四石」）」	「竹の門遺作展」 (S10)に同名8点出 品、『竹の門遺墨百選 展』(S49)に同名4点 出品・掲載
56	3-01-01-68	百合図	大正期	(画)筏井竹の 門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2010. 06. 17	・寸法 127. 2cm×17. 2cm ・花瓶に生けられた百合が描かれる。 ・「竹の門生（白文方印「竹廼／門」	「竹の門遺作展」 (S10)に同名1点出 品、『竹の門遺墨百選 展』(S49)に「白百 合」の作品名で1点、同 名4点出品・掲載
57	3-01-01-69	尾山神社にて	大正期 ※大正8年 (1919)以降	(画)筏井竹の 門	1	軸装	紙本・墨 画	2010. 06. 17	・寸法 23. 8cm×35. 7cm ・尾山神社の結婚式場金溪閣の庭園にある、四方 仏手水鉢が描かれ、手水鉢周りの木札に「後藤程 乗／手水鉢」とある。 ・「尾山神社／にて／竹の門生（白文方印「四石 ／道人」）」	
58	3-01-01-70	紫蘭図	大正期 ※大正8年 (1919)以降	(画・賛)筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2010. 06. 17	・寸法 135. 0cm×33. 5cm ・画面中央から下部にかけて紫蘭（ラン科の多年 草）と、竹の門自らの句賛あり。 ・「庭木の西空明るく新聞を／見れば蚊の来る／ 竹の門生（白文方印「独苦／寒」）」	『竹の門作品集』 (S58)掲載
59	3-01-01-71	珊瑚樹図	大正11年 (1922)8月	(画)筏井竹の 門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2012. 12. 28	・寸法 135. 8cm×32. 6cm ・画面いっぱいに珊瑚樹（スイカズラ科の常緑小 高木）が力強く描かれる。 ・本資料は、寄贈者の夫の長兄の誕生と、母の産 後の体調回復の願いを込め、竹の門に直接頼んで 描いてもらったもの。珊瑚樹には健康祈願や火災 除けの願いが込められているといわれる。 ・「壬戌八月 竹の門生（白文方印「四石」）」	

60	3-01-01-72	画帖『瞰流帖』	大正8年 (1919)10月	(画)筏井竹の 門	1	折本	紙本・墨 画淡彩	2014. 01. 24	・寸法 10.3cm×7.2cm×厚2.0cm ・竹の門が大正8年に大牧温泉を訪れた際に描いた画帖（表・裏に計12点の画）。 ・東砺波郡の東山見村金屋（現砺波市庄川町金屋）、平村祖山（現南砺市平村）、利賀村新山（現南砺市利賀村新山）などの地名がみられる。 ・題紙「瞰流帖」。①「大牧途上金屋」、②「大牧ニテ」、③「大牧ニテ」、④「薬師ノ下」、⑤「祖山温郷」、⑥「祖山籠の渡し」、⑦「にれの花」、⑧「あら山にて」、⑨「改井君の／大牧養生」、⑩「大牧の子供」、⑪「温泉上り」、⑫「己未秋十月／「四石山人」（朱文方印「虎」）／寺田君の後姿」	
61	3-01-01-73	芒図	大正期	(画・賛)筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	2014. 01. 24	・寸法 145.0cm×22.2cm ・芒が描かれ、竹の門自らの句賛あり。 ・「春梅漬み苦みの／朝の秋涼し／竹の門并題（朱文方印「虎」）」	「竹の門遺作展」 (S10) に出品、『竹の門遺墨集続集』(S11) 掲載、「竹の門遺作展」(S40) に出品
62	3-01-01-74	長春図	大正期	(画・賛)筏井 竹の門	1	軸装	紙本・墨 書、墨画 淡彩	2014. 01. 24	・寸法 145.2cm×23.0cm ・鉢植えの長春花（バラ科の常緑低木）を描き、竹の門自らの句賛あり。 ・「言葉慎むべし／子のあれバほたる／竹の門并題（朱文方印「虎」）」	「竹の門遺作展」 (S10) 出品
63	3-01-01-75	柘榴図	大正期	(画)筏井竹の 門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2014. 01. 24	・寸法 164.9cm×32.0cm ・柘榴を描く。 ・「竹の門生（白文方印「四石」）」	「竹の門遺作展」 (S10) に同名で4点、『竹の門遺墨集第3集』(S20) 掲載、「竹の門遺作展」(S40) に同名で1点、『竹の門遺墨百選展』(S49) に同名3点出品・掲載
64	3-01-01-76	俳画屏風	大正初期	(画)筏井竹の 門	6	6曲1隻 屏風	紙本・淡 彩	2016. 04. 22	・寸法（各扇）102.0cm×42.5cm ・6点の俳画を屏風仕立てにしたもの。6扇全てに同じ落款「竹の門生」と印章の白文方印「四石」がみられる。 ・一番右の第1扇には梅図、第2扇には松図、第3扇には観音図と俳句「今の世の人間小さしねはん像」、第4扇には白梅図に俳句「袷着て皆弓槍に遊びけり」、第5扇には人參・葱・林檎図に俳句「富を積めば時口あり落葉風すさふ」、第6扇（一番左）にはナナカマドの木が描かれる	

65	3-01-01-77	竹梅図	大正10年 (1921)4月	(画)筏井竹の 門	1	軸装	紙本・墨 画淡彩	2016. 09. 10	・寸法 136.2cm×32.4cm ・前景に笹の葉が、背景に梅が描かれる。 ・「辛酉四月／竹の門生（朱文円印「四石」）」	
66	3-01-01-79	たんぽぽ図	大正期	(画)筏井竹の 門	1	扇面	紙本・彩 色	2021. 12. 03	(要詳細調査)	
67	3-01-01-81	屏風・短冊・掛 軸・色紙・短冊等	明治～昭和期	筏井竹の門、 沢田沢楼ほか	約50	屏風 色紙 軸装 短冊等	—	2021. 12. 03	・筏井竹の門、沢田沢楼等に関わる関連資料 (要詳細調査)	
68	3-01-01-84	人参図	大正期	(画・賛)筏井 竹の門	1	軸装		2021. 12. 16	・寸法 136.0cm×22.3cm ・人参と竹の門自らの句賛あり。 ・「古人に如かぬ今人の冬籠り」	(本間常吉氏旧蔵) 「竹の門遺作展」 (S40) 出品
69	3-01-01-85	藤図	大正期	(画)筏井竹の 門	1	軸装		2021. 12. 16	・寸法 141.4cm×33.1cm (要詳細調査)	
70	3-99-02	短冊「秋桜図」	大正2～5年 (1913～16)頃	(画・賛)筏井 竹の門	1	短冊	紙本・墨 書・墨画 淡彩	2010. 05. 15	・寸法 36.0cm×6.0cm ・桃色のコスモスが1輪描かれる。 ・「庵杉の空澄めり／鴈の高鳴に／竹の門（描印 「㊦」）」	『竹の門句集』（T10） p45掲載
71	3-99-04	俳句短冊 ①「山吹の」 ②「元日」 ③「天狗松」	大正期	(画・賛)筏井 竹の門	3	短冊	①紙本・ 墨画淡彩 ②絹本・ 墨書 ③紙本・ 墨書	2010. 03. 31	・①寸法 36.2cm×6.1cm ・①「山吹の黄なる落葉や／三十三才／「竹の門 生（朱文方形印「此君生）」 ・②寸法 36.2cm×6.0cm ・②「元旦実のならぬ南天の／ほのかなる雪／竹 の門生」 ・③寸法 36.4cm×6.1cm ・③「天狗松を真向うに／上る茸乏し／竹の門」	『竹の門句集』（T10） p53に③「天狗松」、 p68に①「山吹の」2点 掲載
72	3-99-05	俳句短冊「雨後の 月」	大正期	筏井竹の門	1	短冊	紙本・墨 書	2019. 06. 27	・寸法 36.2cm×6.0cm ・「雨後の月 竹千竿の／氷柱かな 竹の門」	
73	3-99-07	和歌短冊「蓮は実 となり」	大正期	筏井竹の門	1	短冊	紙本・墨 書	2020. 07. 28	・寸法 36.4cm×6.1cm ・「蓮は実となり／菰は花とこぼるゝ／竹の門」	
74	3-99-11	俳句「月明く」	大正期	筏井竹の門	1	軸装	紙本・墨 書	2010. 04. 01	・寸法 128.4cm×15.3cm ・「月明く瀬白照る丑の温泉に挙る／竹の門（朱 文方印「虎」）」	
75	3-99-12	俳句短冊「砂畑 の」	大正期	筏井竹の門	1	短冊	紙本・墨 書	2010. 05. 15	・寸法 36.2cm×6.0cm ・「砂畑の□が明るい麦が／青々と二筋／竹の 門」	

76	3-99-13	俳句短冊 ①「東海に」 ②「王侯の」 ③「雛の尾の」	大正期	①②筏井竹の門 ③河東碧梧桐	2	短冊	①②絹本・墨書 ③紙本・墨書	2011. 03. 05	・寸法（3点同寸）36.2cm×6.0cm ・①「東海に名たゝる／城や初御宿／竹の門」 ・②「王侯の末枝の／画譜や麗けき／竹の門」 ・③「雛の尾のしだれの艸も紅葉／かな／碧」	
77	3-02-30	俳句短冊「水仙の」	大正期	筏井竹の門	1	短冊	紙本・墨書	2021. 04. 17	・寸法 35.3cm×5.8cm ・「水仙の日向に□る猫か来て／眠る／竹の門生」	
78	3-02-31	俳句書「晴間温泉へ」	大正期	筏井竹の門	1	（画帖剥がし）	紙本・墨書	2021. 04. 17	・寸法 21.0cm×29.9cm ・「晴間／温泉へ／下りる／清水の／落葉／澄む／竹の門」 ・画帖を剥がしたもの	
79	3-02-32	俳句短冊「芒穂のみに」	大正期 ※『竹の門句集』によれば大正3年(1914)	筏井竹の門	1	短冊	紙本・墨書	2021. 04. 17	・寸法 36.2cm×6.0cm ・「芒穂のみに／日の白し山蔭にして／竹の門」	『竹の門句集』（T10）掲載
80	3-03-03-13	黒田焼 絵付茶鉢	大正5年(1916)頃	（絵付）筏井竹の門	1	茶鉢	陶土・焼成（陶器）、施釉、彩色	2016. 12. 22	・寸法 口径17.7cm×高12.8cm×高台径6.7cm ・竹の門が絵付した黒田焼の茶鉢。胴から腰にかけて2匹の鹿と、見込に山と月が描かれる。 ・腰には竹の門の号「○に杓」。 ・黒田焼は角陶風（本名・太一。1871～1926）が大正5年(1916)創始。「射水焼」ともいう。最盛期には大規模に製陶していたが、長男・保の代で経営困難となり、昭和3年(1928)廃窯した	「竹の門俳画展」（S33）出品
81	3-03-03-17	黒田焼 絵付銘々皿	明治中～大正期	（作）角陶風（絵付）筏井竹の門	5	皿	陶土・焼成（陶器）、施釉、彩色	1975. 10. 01	・寸法（【向日葵】径16.5×高3.4、【芒】径16.6×高3.9、【紅梅】径16.8×高3.3、【浜茄子】径16.8×高3.1、【甘草】径16.6×高3.8） ・現高岡市下黒田で焼かれた黒田焼の皿に、竹の門が絵付したもの。 ・「向日葵」・「芒」・「紅梅」・「浜茄子」・「甘草」が描かれる。 ・底面に「陶風」の刻印あり	（鈴木善松氏旧蔵）

82	3-03-03-18	絵付中鉢	大正末期	(絵付) 筏井竹の門	5	中鉢	陶土・焼成(陶器)、施釉、彩色	2014. 01. 24	・寸法 (5点同寸) 径17. 9cm×高6. 0cm ・竹の門が絵付けした中鉢。見込部分には山・家・木などの風景のほか、菊、水仙が描かれる。 ・箱書きは、竹の門とも親交が深かった現南砺市城端出身の俳人・俳画家・篆刻家の谷聴泉(俳号・丹矢／1898～1939)。箱の蓋裏に「乙丑極月(陰暦12月の異称)〔大正14年(1925)〕」とあることから、箱書きは竹の門の死(同年3月29日)後に書かれたものとわかる。 ・蓋表に墨書「四石山人画／鉢／風景三枚／菊一枚／水仙一枚」	
83	3-03-03-19	黒田焼 徳利	大正期	作・角陶風 絵付・筏井竹の門	4	徳利	陶土・焼成(陶器)、施釉、彩色	2014. 01. 24	・寸法 (4点同寸) 口径3. 1cm×底径4. 3cm×高12. 5cm ・現高岡市二塚出身の角陶風の製陶で、竹の門が絵付した黒田焼の徳利。 ・箱書きは、竹の門とも親交が深かった現南砺市城端出身の俳人・俳画家・篆刻家の谷聴泉(俳号・丹矢／1898～1939)。箱の蓋裏に「乙丑極月(陰暦12月の異称)〔大正14年(1925)〕」とあることから、箱書きは竹の門の死(同年3月29日)後に書かれたものとわかる ・①②枯葉、③④山・家がそれぞれ描かれる ・刻印(4点とも腰部に)「陶風」 ・蓋表に墨書「竹の門画／徳利二本」 ・蓋側面に「竹の門筆／徳利四」と紙が貼付	

3. 参考図書

84	(図書)	『竹乃門遺墨集』	昭和2年(1927)	(発行) 竹の門句碑建設会	1	冊子	紙・印刷	—	・竹の門が描いた61作品が掲載。 ・題箋・題句は河東碧梧桐、題辞は富田溪仙両名による	
85	(図書)	『竹の門遺墨集続集』	昭和11年(1936)	(発行) 白鳳会	1	冊子	紙・印刷	—	・竹の門が描いた71作品が掲載。 ・題箋・題辞は富田溪仙による	
86	(図書)	『竹の門遺墨集第三集』	昭和20年(1945)	(発行) 白鳳会	1	冊子	紙・印刷	—	・竹の門が描いた87作品が掲載	
87	(図書)	『筏井竹の門遺墨百選』	昭和49年(1974)	(発行) 高岡市立美術館	1	冊子	紙・印刷	—	・同館で展示・公開された竹の門作品100点が掲載(展覧会期: 同年10月24日～28日)	
88	(図書)	『筏井竹の門歌集』	昭和49年(1974)	(発行) 短歌新聞社	1	冊子	紙・印刷	—	・筏井竹の門著、筏井とみ編。 ・竹の門が大正7～10年(1918～21)に作った歌のほか、略年譜、訃報記事、生前交流のあった俳人・画家6名の追悼文等が掲載	